

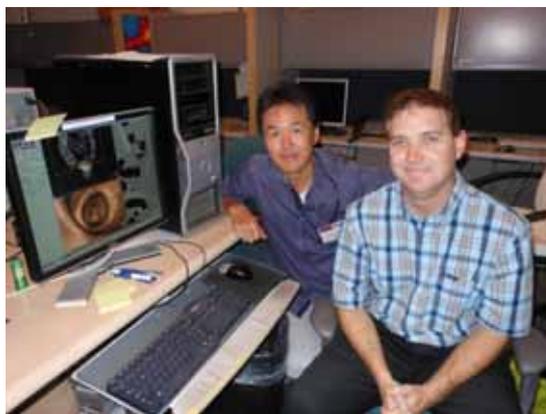
## スタンフォード大学海外研修に参加して

奈良県立医科大学附属病 水野 吉将

スタンフォード大学海外研修に参加した目的は CT, MR, 放射線治療における, 検査方法の日本との比較. MR 検査での安全性について(事前チェック, 更衣). 診療放射線技師教育制度の日米の比較などを直接, 観て, 感じてみたいと思い参加した.

その結果, モズレー先生の講義「The Future for Radiology」のなかで, とくに, Neuronetwork の話のテンソル画像, ニューロネットワークの画像化, 被検者の IQ, 性格などがある程度, 判定できるところまでできていること. さらに, これらを確立することが「NEURO-MARKETING となり, いろいろな利益になる」と言われたことに驚いた.

また, fMRI は精神治療, うつ病などで, その原因をつきとめ, その治療もその場で画像を見ながら行おうとしていることに驚いた. そのためにも TMR が必要であることを強く訴えていた. 3D ラボでは, スタンフォード大学の病院で撮影, 撮像された MR, CT 画像を 3D 作成専門技師が WS(ワークステーション)を使用して, 3D を作成していた. 日本では, このような環境は少ないと思う. 日本では, ほとんどが撮影した技師, あるいはセカンドで居る技師がその場で 3D を作成しているのがほとんどであると考え. その点, スタンフォード, アメリカでは放射線技師は完全に分業化していると感じた. そして, VARIAN 社の工場見学で, リニアックの製造工程をパーツごとに詳細に見ることができた. そのなかでもマルチリーフの組み立て, 制御, 精度管理, さらには出来上がったリニアックの機器最終チェック, 精度評価などの説明が聞けた. そして, 最新リニアック装置「true BEAM」を実際にみることもできた. したがって, この研修での達成感とは T の MR 装置を実際に体験することができなかったこと以外は, スタンフォード大学の先生方の講義, 分子イメージングの見学, 大学内の医療施設の見学等を含め自分自身に良い刺激になったと思う. 今回, 研修で出会った「仲間 21 人」はほとんどが初対面の方々でしたが, それぞれの目標に共通点が多いことから, 溶け込むのに時間がかからなかったと思う. これからも, 良き相談, 競争相手であり, 何事でも相談できる兄弟のような関係であり続けたいと思う. 私は研修参加前, 英語力がなくてもなんとかなると考えていたが, 自分自身のリスニングの乏しさ, 英語力の低さを痛感した. 今後, 英語を話せ, 聞けて, 理解できるようにならなければと思った. 最後に, 今回このような機会を与えていただきました日本放射線技術学会関係者の皆様, 現地でお世話になった GE ヘルスケアジャパンの皆様, 神戸大学医学部附属病院 京谷様, 参加に快く承諾していただいた奈良県立医科大学附属病院, 上野山技師長ならびに技師の皆様から心から感謝します.



筆者と Marc Sofilos (RT)さん 3D ラボにて